



◎調査部第四分科委員會

調査部第四分科委員會は、一月十八日午後五時から丸ノ内日本俱樂部に於て會合した。近委員、三浦、岩澤、都筑各幹事出席し、前回に引續き簡易舗装道の築造説明書作成に關して協議した、茲で第三讀會に移り愈々微に入り細を穿ち、其の完からん事を期し、且速に稿を終へ一日も早く上梓すべく努力することを約して午後十時散會した。

◎副會長の歸朝

本會副會長内田嘉吉氏は、ワシントンに於ける國際無線電信會議に、帝國委員顧問として、八月二十一日渡米されて

るたが、用務も無事終了したので、豫定通り去る二月二日午前九時十分東京驛着、頗る元氣で歸朝せられた。氏は滞在中道路に關する事項を併せ調査され、本會に對し參考資料を贈られてゐる位であるからさぞ有益な話を聞くことが出来るであらう、夫等は改めて本誌に紹介する豫定である。

◎本會地方幹事の計報

本會地方幹事富山縣土木課長小原光信氏は客冬以來病魔の侵すところとなり、富山市總曲輪の縣廳官舎にあつて只管靜養に努められたが藥石其の效無く客月二十六日午後七時永眠せられた。

氏は熊本縣の産、明治二十一年十一月生れといふから本年四十一歳、世に所謂「前厄」の歳である。大正三年七月東京帝國大學土木學科を卒業し、同年十二月長野縣を振出しに福島縣、鐵道省、山口縣を経て十三年三月滋賀縣土木課長となり居ること三ヶ年半にして、客年九月富山縣土木課長に轉任したのであつた。資性溫良實直にして事を處

するに公平且つ眞摯懇切を極め、部下を信頼して愛撫の念慮篤く、稀に見る人格者として廣く尊敬せられたのであつた。滋賀縣在職中の事業を通覽するに、先づ世人の記憶に新たな瀬田、野洲、御幸の三大橋の完成や鈴鹿峠、賤ヶ岳隧道の開鑿、彦根港改築工事竣功等は、正に氏が心血を注いで努力した賜である。計畫の事業として、一號國道横田橋や、府縣道八幡橋の架換、鈴鹿峠接續道路の改良等其の他同縣の路政に就ては見るべき事業を残した。

富山縣に往つてからは赴任後日尙淺きに不拘、富山高岡間國道や、高岡伏本間府縣道の改築等を初めし其の他幾多の改築計畫を樹立し、從來見るべきもの、渺なかつた、同縣の路政に就て一新紀元を劃した、今や其の實行期を前にして吾人は縣民と共に實行力ある氏の手腕に期待したのであつたが。惜しいかな本年に入つて病全く改まり今や遂に不歸の客となる。たゞ茲に謹んで哀悼の意をする次第である。(淺香小兵衛謹記)

道路改良宣傳唄

村を富ますに工夫はあれど

何より先立つ道普譜

隣り村では自動車が行る

私が在所じマララツ掛け

わしが在所に賣ばあれど

道がないので持ちくされ

汽車は通はず海路は荒れる

道路よくする外はない

農村振興唱へる人が

なぜに氣付かぬ道普譜